第2章　農業農村整備事業におけるデザインコードの展開

2．1　基本的な景観構成要素におけるデザインコード

ここで挙げる景観構成要素は、整備工種別の景観配慮の観点から、特に重要となる項目であり、これらの項目から収集するデザインコードは、施設整備における基本的な検討事項となる。

基本的な景観構成要素におけるデザインコードの解説事項の読み方

基本的な景観構成要素の解説（一例）

[No.]基本的な景観構成要素

景観構成要素の概要の解説

デザインコードの着眼点
各景観構成要素において表出するデザインコードの例を「配置」、「色」、「形」、「素材」、「生物種」ごとに示している。

読み取りの着眼点
デザインコードの読み取りを行う際の着眼点、さらにデザインコードの成り立ちの観点を示している。

関係項目
提示している景観配慮項目のうち、デザインコードの収集をあわせて行うことが望ましい項目を挙げている。
文中の番号は、それぞれ景観構成要素の通し番号を示す。

4. 農地

［概要］

農地は、農村地域における面的な広がりをみせ、その形態や栽培される農作物が地域の農業景観の特徴を示す要素となる。

［デザインコードの主な着眼点］

棚田など地形の勾配に沿った農地、低平地などにおける短冊、格子状の農地にみられる区画形状にデザインコードが表出する。

［配置］：特に、集落居住区との配置関係（隣接している、混在しているなど）などの共通性がデザインコードとなる。

［形］：農地の区画形状の共通性にデザインコードが確認される。

［色］：収穫時期の一面の稲穂の色彩など、一面に広がる季節ごとの作物の彩りにデザインコードが表出する。

［読み取りの着眼点］

デザインコードの収集では、高台などから農地を眺め、区画形状や農作物（植栽、色）にみられる共通性を確認する。さらに、以下の情報が読み取りを容易とする。

・　自然

事前に地形条件を地図や空中写真から地形条件を把握しておく。

・　生活、文化

農作物については、対象地域の特産物や長く栽培されている作物などの情報を入手しておく。

［関係項目］

農地の形態の確認では、１．地形・植生、２．集落や５．水路、６．道路、８．農地の区画割りをあわせて調査する。
さらに、農地の境界域を見る際には 11．法面や 12．境界材との関係、農作物を見る場合は、18．農作業、25．色彩との関係に着目し、デザインコードを収集する。

2．2　対象工種別の基本的な景観構成要素

対象とする整備工種は「農地（水田・畑など）」、「水利（水路・ため池、堰など）」、「道路（集落道・農道など）」、「建屋（管理棟・水槽・機場・処理施設などの上部建築物）」である。

これらの工種の景観配慮の検討における基本的な景観構成要素を示し、以降で要素ごとに表出するデザインコードを解説する。

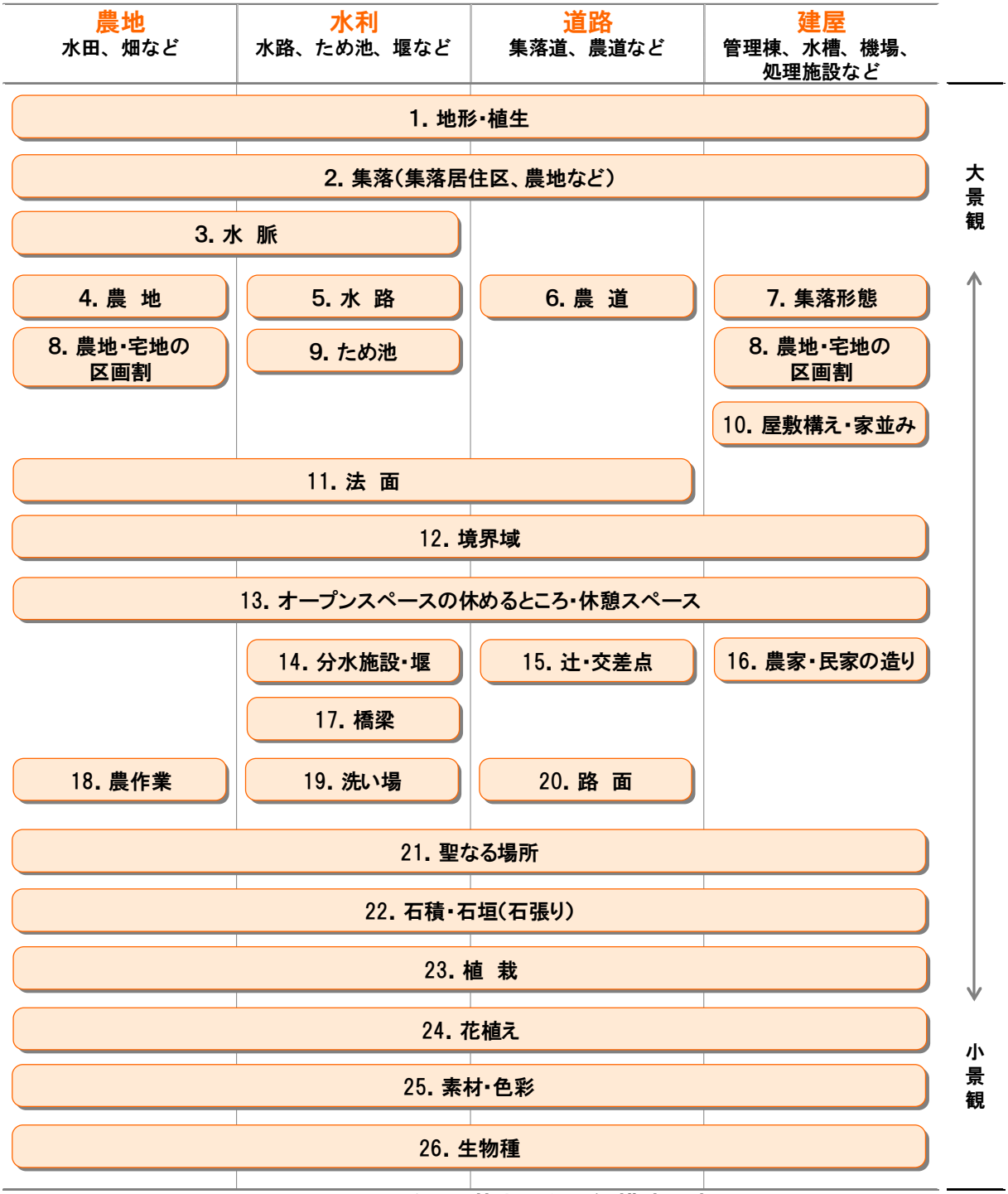

図 2-4　工種別の基本的な景観構成要素

2．3 基本的な景観構成要素に表出するデザインコード

ここで挙げる基本的な景観構成要素に表れるデザインコードの要点を示す。

1．地形・植生

［概要］

自然環境や地形条件は、その土地の土地利用や農地形成、営農の基盤である。

特に、象徴的な山脈や山並みの稜線など地形的な特徴が地域の景観を形成する礎となり、地域の景観を特徴づける大きな影響力を有している。デザインコードの活用では、まず地域における自然環境や地形条件のあり方を十分に把握し、活用の検討にあたる必要がある。

［デザインコードの主な着眼点］

自然・地形は、地域の営みの基礎となる「与えられた条件」として、デザインコードを形成している基盤として捉える。さらに、農村景観における彩としての植生に着目する。

［読み取りの着眼点］

・ 自然

現況の地形を地図や文献などから読み取る。

加えて、過去の地形はどのようなものであったか、古代から現代に至るまでの自然災害など土地の性格などの情報を入手しておく。

2．集落（集落居住区、農地など）

［概要］

土地利用は、農村景観の骨格をなす項目である。デザインコード収集では対象から離れた場所（大、中景観）から景観を捉える際の重要項目である。

［デザインコードの主な着眼点］

山すその傾斜地に集落居住区、その前面の平坦地に農地が形成される配置パターンは、集落土地利用の典型的なデザインコードの一つである。

［配置］：生産域（農地など）、生活域（集落居住区など）、保全調整域（共有林、里山など）、道路、水路の構成に共通した配置パターンに着目する。

［読み取りの着眼点］

・ 自然、土地利用

地図または空中写真などを用いる、または高台からの眺望により、大景観レベルから農地や集落居住区などの位置関係を読み取る。

［関係項目］

１．地形・植生や３．水脈、４．農地、６．農道、７．集落形態とあわせて活用の検討を行う。

長野県高森町（象徴的な山並みと麓の集落）
「自然・地形」については、生産や生活を営むための「与えられた条件」として捉える。土地利用や集落形成などの基礎をなす重要な項目である。

福井県越前市（旧宮崎村）（集落土地利用）
山を背に集落居住区が位置し、前面の道路、水路を挟んで水田が形成されている。我が国の山すその集落土地利用の典型的な配置パターン。

3. 水脈

［概要］

過去、現在において生活、生産活動に必要な水の確保は常に重要な課題として位置づけられている。農業用水、生活用水に限定しても水源の確保は地域の自然・地形条件に影響されている。

［デザインコードの主な着眼点］

水路に沿った緑地帯の配置や、地下水脈上に形成された屋敷などの配置がデザインコードとなる。

［配置］：水のネットワークの存在が視認できるような緑地や屋敷の配置にデザインコードが見られる。

［読み取りの着眼点］

水路などの存在を視認できる植栽などに着目する。加えて、以下の項目の情報を得ておくと読み取りが容易となる。

- 自然

地形条件（扇状地、台地など）や水源の位置などの情報を把握して、水のネットワークを確認する。

- 地域コミュニティ、地域の沿革

冠水や洪水、渇水に対して地域住民がどのように対処してきたか、どのような試行錯誤の結果が現在に受け継がれているか、などの情報から、現況の水のネットワークの形成過程を調べる。

［関係項目］

デザインコードの活用にあたっては、１．地形・植生、２．集落、４．農地、５．水路、９．ため池、23. 植栽などの配置パターンとの関係をあわせて検討する。

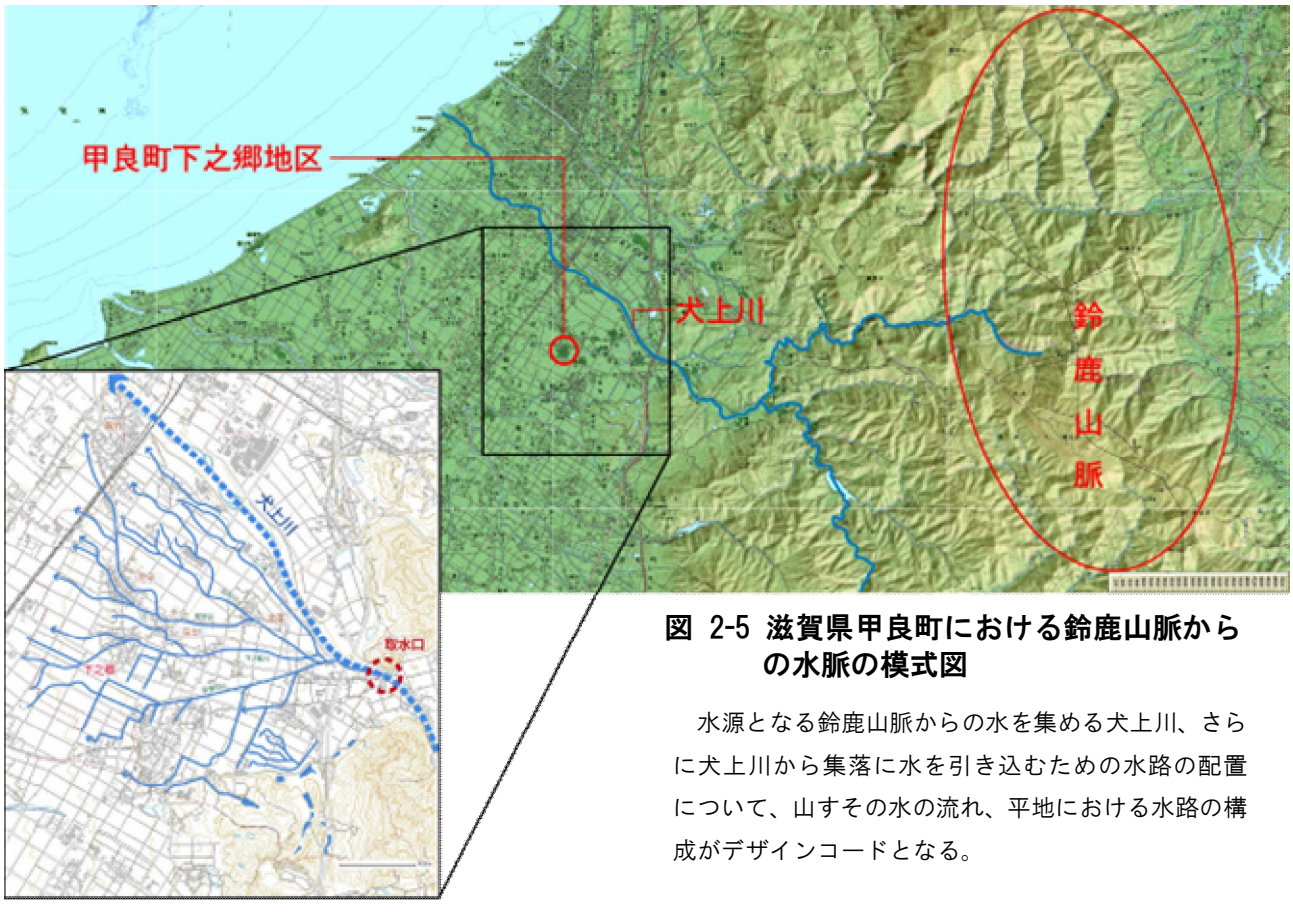

図 2-5 滋賀県甲良町における鈴鹿山脈からの水脈の模式図

水源となる鈴鹿山脈からの水を集める犬上川、さらに犬上川から集落に水を引き込むための水路の配置について、山すその水の流れ、平地における水路の構成がデザインコードとなる。

4. 農地

［概要］

農地は、農村地域における面的な広がりをみせ、その形態や栽培される農作物が地域の農業景観の特徴を示す要素となる。

［デザインコードの主な着眼点］

棚田など地形の勾配に沿った農地、低平地などにおける短冊、格子状の農地にみられる区画形状にデザインコードが表出する。

［配置］：特に、集落居住区との配置関係（隣接している、混在しているなど）などの共通性がデザインコードとなる。

［形］：農地の区画形状の共通性にデザインコードが確認される。

［色］：収穫時期の一面の稲穂の色彩など、一面に広がる季節ごとの作物の彩りにデザインコードが表出する。

［読み取りの着眼点］

デザインコードの収集では、高台などから農地を眺め、区画形状や農作物（植栽、色）にみられる共通性を確認する。さらに、以下の情報が読み取りを容易とする。

- **自然**

事前に地形条件を地図や空中写真から地形条件を把握しておく。

- **生活、文化**

農作物については、対象地域の特産物や長く栽培されている作物などの情報を入手しておく。

［関係項目］

農地の形態の確認では、１．地形・植生、２．集落、５．水路、６．農道、８．農地の区画割をあわせて調査する。

さらに、農地の境界域を見る際には 11．法面や 12．境界域との関係、農作物を見る場合は、18．農作業、25．色彩との関係に着目し、デザインコードを収集する。

奈良県椿原町（安田の水田）
斜面に沿った区画の形がデザインコードとして収集される。

岩手県北上市（山間の水田）
農地の区画だけはなく、蛇行した農道の線形もデザインコードとして収集される。

岡山県岡山市（旧灘崎町）、玉野市(児島湾干拓地の水田)
干拓地では、直線的で格子状の農地地の区画や道路、水路の線形がデザインコードとして確認できる。
当該地区では、集落居住域が農地内に分散している配置パターンもデザインコードとなる。
さらに、季節の移り変わりによる稲穂の色彩もデザインコードとして収集される。

5. 水路

［概要］

水路は用途により農業水路と集落排水路に分けられ、農業水路はその規模により幹線水路、支線水路、３次水路などに分類される。

［デザインコードの主な着眼点］

干拓地や江戸期に開墾された計画的な農地については、共通した直線的な線形がデザインコードとなる。小規模な水路では、まれに、道路中央に水路が配置されている歴史的デザインコードが残る場所もある。

・　幹線水路や支線水路

［形］：大景観レベルから捉える線形にデザインコードが表れる。

・　３次水路などの規模の比較的小さいもの

［配置］：農業用水路、集落排水路などにおいて、洗い場や堰の配置パターンにデザインコードが表出する。

［形］：線形には地形の影響や計画的な意図が表出しやすく、「蛇行している」または「直線的である」などの共通性がデザインコードとなる。

［読み取りの着眼点］

大規模な水路の線形は、地図上から読み取る。小規模な水路については、踏査前に対象地域における水利用について以下のような情報を加えると読み取りが容易となる。

・　生活、文化

洗い場については民家に隣接しているなど、民家との位置関係を確認する。

・　地域コミュニティ

洗い物をする際の決め事があるなど、住民の日常生活との関係を聞き取り調査などで把握する。

［関係項目］

大景観、中景観レベルからは、１．地形・植生、３．水脈、８．農地の区画割、23．植栽との関係がある。

小景観レベルから眺める場合には、11．法面、14．分水施設・堰、19．洗い場など、水路を構成する項目をあわせて確認する。

大分県玖珠町（大景観からみる基幹水路）
比較的規模の大きな水路の線形については、遠景、中景から捉えるか、地図上で把握する。

山形県金山町（小景観からみる水路の水辺空間）
水路を中心とした水辺空間（水路、歩道、周辺民家の屋敷囲いなど）において用いられている素材やその形をデザインコードとして読み取る。
特に、洗い場などの生活に関係するものの配置関係は重要な歴史的デザインコードとなる。

福井県越前市（旧宮崎村）
道路中央に水辺空間を配した歴史的デザインコードを活用した宅地開発。

6. 農道

［概要］

大きく、幹線農道、支線農道、集落道に分類される。水路と同様に農地、集落の骨格をなすものであり、特に、集落道は比較的地域の歴史・文化的な蓄積が残されている。

［デザインコードの主な着眼点］

水路と同様に、平坦地に直線的に形成される、または傾斜地に地形の影響を受け曲がりくねっている、といった道路の線形にデザインコードが表出する。

さらに、集落の入り口や橋の袂などの場所に共通して植栽や地蔵堂、道祖神などが配置され、これらのような配置パターンが共通しているものはデザインコードとなる。

・ **基幹農道**

［配置］：並木など、道路沿いに植えられている植栽の樹種または、その配置にデザインコードがみられる。

［形］：大景観レベルから捉える線形（直線的、曲線的など）の共通性がデザインコードとなる。

・ **支線農道、集落道、耕作道**

［色］・［素材］：特に、集落道や耕作道などの路面の素材や色にデザインコードがみられる。

［形］：直線的、蛇行している、といった線形の共通性がデザインコードとなる。

［生物種］：集落道や耕作道では、道路沿いの植栽の配置や樹種にデザインコードが表出する。

［読み取りの着眼点］

・ **土地利用、地域の沿革**

基幹道路を対象とした読み取りには、地図または高台からの眺望により、線形の共通性を読み取る。農道、集落道などは、現地踏査で実際に線形や道路脇の植栽などを確認しながら歩いてみる。

・ **地域コミュニティ**

集落道などの沿道に植えられている樹木は、集落の入り口や集落内の中心施設、橋など特定の場所に目印となるよう植栽されている場合が多い。一見しただけでは判断が難しいため、調査では、特に注意する必要がある。

［関係項目］

線形は１．地形条件、２．集落の土地利用の影響を受ける。調査においては、23．沿道の植栽をあわせて確認する。

集落道、耕作道など比較的規模が小さな道路については、20．路面の確認が必要である。集落道では、８．宅地の区画割、10．屋敷構えなど、地域の生活との関係が強く、丁寧な調査が必要である。

岩手県（基幹道路沿いの象徴的な松）

集落の入り口、神社や集会場など集落の中心的な建物の入り口やその周辺、橋の袂などの要所に植栽が施されている場合が多い。このような配置パターンをデザインコードとして収集する。地域によっては、樹種などにも共通性が見られる場合があるので注意する。

7. 集落形態

［概要］

家屋・屋敷の集合形態は、単なる物的集合形態ではなく、集落の成立の歴史的経緯、集落が立地している土地の自然条件（地形・地質など）、集落で営まれる農業経営形態に伴う営農上の必要性などが関係して成立している。

［デザインコードの主な着眼点］

集落居住区の民家と道路（基幹道路、集落道）や水路との配置関係にデザインコード表出する。

例えば、民家の配置について、「農地の中で分散している」、「道路に対し列状に並んでいる」など、農地や道路との関係を受けた、民家の配置パターンがデザインコードとなる。

［配置］：民家の配置（分散している、並んでいる、集まっているなど）や向き（南側を向いている、道路側を向いているなど）における共通性がデザインコードとなる。

［読み取りの着眼点］

現地では、高台など集落を展望することができる場所からの確認、写真撮影を行う。

集落が立地する自然条件と集落形式（かたまって住む、並んで住む、散らばって住む、まち）の関係から類型化されている資料が役立つ。　右下表を参考に対象地域の集落にあてはまる集落形態を選定し、インターネットなどを活用して特徴を把握する。

・　自然、土地利用

現地踏査の事前に地図などから地形条件、民家の集まり方を読み取り、右下表を参考に特徴を把握する。

［関係項目］

集落を構成する項目として、6．農道、8．宅地の区画割、10．屋敷構えなどをあわせて調査する必要がある。

山形県飯豊町（平地の散居集落）
農地の中で民家が分散している配置がデザインコードである。集落形態と関連して、当該地区では民家における屋敷林も重要なデザインコードとなる。

新潟県出雲崎町（海岸沿いの港町）
道路に対し民家が列状に並んでいる配置パターンがデザインコードとして収集される。
あわせて、民家の入り口と向きの配置、屋根形状が重要なデザインコードとして位置づけられる。

表 2-2 集落形態と集落立地の対応

	散らばって住む	並んで住む	かたまって住む	まち
山頂・山腹	・散居集落	・棚状集落 ・層状集落		
谷あい	・散在集落	・谷筋集落	・谷奥集落	・宿場町
台地・平原	・屯田集落 ・開拓集落	・街道村		・宿場町 ・寺内町 ・在郷町
ふもと	・扇状地集落	・段丘下集落 ・東面する山すその集落	・典型的な日本の集落	・門前町 ・城下町
低地	・散居集落	・輪中集落 ・堀上田集落 ・干拓集落 ・自然堤防上の集落	・環濠集落 ・条里集落 ・水郷集落 ・碁盤状集落	・新しい城下町
海辺		・砂丘集落 ・干拓集落	・典型的な日本の漁村（塊状村）	・港町

※「並んで住む」は「散らばって住む」と「かたまって住む」の中間的な状況として位置づけている。
出典『図説集落 その空間と特徴』:建築学会編、都市文化社

8. 農地・宅地の区画割

［概要］

農地や宅地の区画割りは、計画的な農地や集落形成による「格子状」のもの、棚田に代表される地形条件（等高線）に強い影響をうけた不整形なものなどがある。

［デザインコードの主な着眼点］

農地や宅地の区画形状にデザインコードが表出する。宅地の場合は、区画形状に加え、民家の配置や屋根の向きにみられる共通性がデザインコードとなる。

・ **農地、宅地について**

［形］：区画が共通して直線的、曲線的などの形状にデザインコードが表出する。直線的である場合は、区画の長短や大きさが共通している場合がある。

・ **宅地について**

［配置］：屋敷を構成する家屋の配置や、入り口の方向の共通性がデザインコードとなる。

［形］：屋根の形状、向きにデザインコードが確認されることが多い。

［読み取りの着眼点］

調査においては、１/2,500 程度の地図をから農地や宅地の区画を確認しながら現地踏査を行う。さらに、以下の点を事前に把握しておくと収集が容易となる。

・ **地域の沿革**

集落の起源が古い場合には、宅地の区画割にその当時の社会的な要因が反映していることがある。例えば、当時の領主が農民に公平に土地を分配した、防衛を目的としてあえて複雑な集落道を形成した、周りを堀で囲っている、などの影響を今日まで継承している場合がある。

［関係項目］

４．農地、６．農道（集落道）、７．集落形態、10．屋敷構えなどの項目とあわせて調査を行う。

図 2-6 沖縄県名護市嘉陽集落の区画割

碁盤状の民家の敷地の区画と民家の入り口の方向がデザインコードとして収集される。
調査にあたっては、１/2,500 程度の地図から宅地の区画形状と入り口を把握し、現地調査により確認を行いながら赤瓦の民家（図中の屋根が赤い部分）をプロットした。
資料提供　望月久恵

9. ため池

［概要］

ため池は、現在でも灌漑用水源として、水路とともに水のネットワークを形成する重要な項目である。

栃木県（写真上・下）ため池とその周辺の豊かな生態系
ため池とその周辺における植生や生き物にみられる地域独自の種（樹種や生き物の種）がデザインコードとなる。

［デザインコードの主な着眼点］

特に、水のネットワークを形成する水源としてのため池の配置（位置）がデザインコードとなる。

［配置］：周辺農地の水源となる重要な存在であることから、水のネットワークの要所としての配置がデザインコードとなる。

［生物種］：周辺の緑地帯における植栽や多様な生物に、視覚的な共通性にデザインコードが認められる。

［読み取りの着眼点］

水のネットワークとして、ため池の位置情報を地図上にプロットし、水の経路と水を利用する農地の位置関係から共通した配置関係を確認する。

さらに、現地踏査では、事前に以下の情報を収集しておく。

- **自然**

周辺緑地帯の生態系に関するデータ、資料がある場合は確認を行い、生き物や緑地帯などについて視覚的に捉えられる特徴を把握しておく。

- **土地利用、地域の沿革**

ため池は古い歴史を有している場合が多いことから、営農や水利用の歴史を把握することで、現在の水のネットワークの状況を補足することができる、

［関係項目］

1．自然・植生、23. 植栽（周辺の緑地の植栽）、26. 生物種（生き物の生息種）をあわせて調査する。

10. 屋敷構え・家並み

［概要］

宅地の区画割を構成する項目であり、屋敷の境界域や屋敷囲いに着目してデザインコードを収集する。

［デザインコードの主な着眼点］

「屋敷林、生垣や石垣」、列状に形成された家並みでは「家屋の素材や屋根の高さ、屋根の形状」にデザインコードが表出する。

［配置］：道路側に面した屋敷囲い（道路に面した生垣や石垣などの配置）にみられる共通性がザインコードとなる。さらに、列状村であれば民家の入り口の位置（玄関の位置）などにデザインコードが確認される。

［色］・［素材］：家屋に用いられている素材、その色彩の共通性にデザインコードがみられる。

［形］：民家が連なり、家並みを形成する場所においては、区画形状、屋根の高さ・形状（切妻や寄棟など）などの共通性がデザインコードとなる。屋敷林などがある場合には、屋敷林の高さや剪定の仕方にデザインコードが確認される。

［植栽］：屋敷林や生垣に用いられている樹種の共通性がデザインコードとなる。

［読み取りの着眼点］

家並みであれば屋根や壁、屋敷囲いであれば植栽や石垣に着目して共通性を確認する。

・　生活、文化

特定の生垣や屋敷林、石垣などの屋敷囲いには固有名詞がつけられている場合がある（斐川平野の「築地松」や胆沢平野の「エグネ」、「キヅマ」など）。このような地域独自の屋敷囲いの名称を基に文献やインターネットを使った情報収集を行うと、収集に役立つ。

［関係項目］

８．宅地の区画割、12．境界域、さらに 16．農家・民家の造りについてあわせて調査を行う。

石川県金沢市の町並み
屋敷に用いられている素材、屋根の高さ、形状、開口部の取り方などに共通性がみられる。

福井県　農村の住宅地の家並み
新しい宅地の造成にあたり、各民家に伝統的な「越前瓦」を共通して用いている。
調査においては、屋根瓦の共通した色彩や素材（「瓦」、名称が特定できればなお良い）をデザインコードとして収集する。

鹿児島県　石積と生垣が構成する集落道
石垣と生垣を組み合わせた屋敷囲いは、様々な地域でみられるデザインコードである。
ここでは、①石垣と生垣の組み合わせ（配置）、②石垣の石の色彩や石の加工の仕方や積み方（長方形の石を水平に並べ、積み重ねる形態）、③剪定した生垣の形状などがデザインコードとして収集される。